

百人一首 (歌番号: 16 ~ 20)

わびぬれば  
 いまはた同じ  
 難波なる  
 みを つくしても  
 逢はむとぞ思ふ

元良親王  
 もとよしんのう



みをつくし  
 てもあわん  
 とぞおもう

難波瀉  
 短き蘆の  
 ふしの間も  
 逢はでこの世を  
 過ぐしてよとや

伊勢  
 いせ



あわでこの  
 よをすぐし  
 てよとや

住の江の  
 岸に寄る波  
 よるさへや  
 夢の通ひ路  
 人目よくらむ

藤原敏行朝臣  
 ふじわらのとしゆきあそん



ゆめのかよ  
 いじひとめ  
 よくらん

ちはやぶる  
 神代も聞かず  
 竜田川  
 からくれなゐに  
 水くくるとは

在原業平朝臣  
 ありわらのなりひらあそん



からくれな  
 いにみずく  
 くるとは

立ち別れ  
 いなばの山の  
 峰に生ふる  
 まつとし聞かば  
 今帰り来む

中納言行平  
 ちゆうなごんゆきひら



まつとしき  
 かばいまか  
 えりこん